

9月は茨城県認知症を知る月間です

65歳以上の5人に1人は認知症になるといわれています。また、認知症は高齢者に限らず、若い世代もなる可能性がある脳の病気です。県では9月を「茨城県認知症を知る月間」とし、認知症の早期発見や認知症予防の取り組みを推進しています。この機会に認知症を知り理解を深め、社会全体で支えましょう。

【問】 ④地域包括支援センター Tel.92-5920

🍀 認知症とは？

認知症は脳や身体の病気が原因で、記憶力や判断力が低下し、日常生活に支障をきたす状態です。高齢者特有の病気ではなく、誰にでも起こる可能性があります。

🍀 認知症の症状(一例)

- ・ 何度も同じことを言う、聞く
- ・ 段取りや計画が立てられない
- ・ 財布や物が盗まれたと言う「ものとりれ妄想」
- ・ 暴言や暴力を振るう
- ・ 徘徊し行方不明になる

🍀 認知症ともの忘れの違い

年齢を重ねると、脳の老化によって誰もがもの忘れをしやすくなりますが、加齢に伴うもの忘れと認知症とは大きな違いがあります。

認知症のもの忘れ	加齢によるもの忘れ
体験の全てを忘れる	体験の一部を忘れる
もの忘れの自覚がない	もの忘れの自覚がある
親しい人やよく行く場所が分からなくなる	親しい人やよく行く場所は忘れない
性格に変化がある	性格は変わらない
自分の今いる場所や時間が分からなくなる	自分の今いる場所や時間はわかる

🍀 認知症初期集中支援チームが総合的な支援をしています

認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、認知症サポート医、医療職、介護職が認知症初期集中支援チームとして、認知症の人やその家族に早期から関わって自立に向けた支援を行っています。※利用希望者は、お住まいの地区の高齢者サポートセンターにご相談ください。

住んでいる地区	愛称	場所	電話番号
古河	高齢者サポートセンター古河	古河福祉の森会館付属棟(新久田271-1)	23-6517
総和	高齢者サポートセンター総和	健康の駅(駒羽根1501)	92-5920
三和	高齢者サポートセンター三和	三和地域福祉センター(仁連2228-7)	77-1901

◆ 在宅介護支援センターでは福祉に関する困りごとの相談を受け付けています

高齢者やその家族等の身近な相談ができるよう365日24時間対応の窓口を開設しています。介護保険や高齢福祉サービス、認知症のことなど何でも相談できます。市内に8カ所あり、お住まいの地区ごとに担当区域が分かれていますので細やかな対応が可能です。詳細は、高齢者サポートセンターへ問い合わせください。また、認知症に関する個別相談も実施しています。詳細は、34ページをご覧ください。

市の名産品であるバラを予約販売します

市では、新型コロナウイルスの影響で厳しい状況にある花卉農家を応援するため、家庭や職場で花の購入を促し消費拡大を目指す「KOGA花いっぱいPROJECT」を行っています。

その一環として、茨城県銘柄産地指定を受けている市内で生産されたバラを期間限定で予約販売します。皆さんの暮らしにバラの花で彩りを加えてみませんか。

【問】 ③農政課 Tel.76-1511



費用 一束1,000円(6~8本)
※色や品種は選べません。

申込期間 9月1日(火)~10月28日(水)
(受付時間:9時~18時)

申込方法 JA茨城むつみ農産物直売所総和店へ電話で予約(Tel.91-1315)

※定休日は毎月第1・第3月曜日。

場所 JA茨城むつみ農産物直売所総和店(女沼598-1)

※受け取りは土曜日のみ(11時~18時)。

妊産婦が安心して避難できる場所を

市では、新型コロナウイルスが流行している中での災害対策として、市民の皆さんに密集を避けた避難をお願いするとともに、多岐にわたる避難スペースの確保に努めています。その一環として、学校法人晃陽学園と災害時における妊産婦避難所施設としての使用に関する覚書を締結しました。

この妊産婦避難所は、避難所生活において特別な配慮が必要な妊娠中の女性や出産後1年以内の女性のための避難所です。他の福祉避難所と同様に、一般避難所を開設した後、施設の状況を確認し必要に応じて市が開設を決定します。晃陽学園に直接行っても利用できませんので、ご注意ください。

【問】 ④防災・危機管理課 Tel.92-3111



▲避難所となる晃陽看護栄養専門学校の教室



▲乳児用の入浴設備



▲針谷市長(左)と齋藤理事長(右)